

# 三鷹市立図書館協議会 第19期提言

## 「三鷹市立図書館の施設のあり方について(提言)」

令和元年6月20日

三鷹市立三鷹図書館長  
田中博文様

### 三鷹市立図書館協議会

会長	瀬島健二郎
副会長	小谷奈保子
委員	亀山桂子 (平成30年3月まで)
委員	藤原留美子 (平成30年5月から)
委員	宮城洋之
委員	尾本政二
委員	小澤和弘 (平成30年5月まで)
委員	岡田正夫 (平成30年5月から)
委員	倉田清子
委員	内藤千津
委員	大塚敦子
委員	松本直樹
委員	田中稔
委員	多田安曇

(順不同)

## 目次

A	はじめに	・・・	1
B	三鷹市立図書館に寄せられた市民の声	・・・	1
	(1) 本館、分館の設備について	・・・	1
	(2) サービスポイントの増設について	・・・	1
	(3) 移動図書館について	・・・	1
C	三鷹市立図書館の現有施設	・・・	1
D	平成元(1989)年の『三鷹市立図書館の将来計画について』(建議)とその評価 について	・・・	2
	D-1 『三鷹市立図書館の将来計画について』(建議)	・・・	2
E	三鷹市立図書館の施設面の課題		
	E-1 現有施設の改修と『三鷹市公共施設等総合管理計画』(平成29年3月)	・・・	2
	E-2 三鷹市立図書館(本館 3,172.31 m <sup>2</sup> )	・・・	3
	E-3 東部図書館(596.92 m <sup>2</sup> )	・・・	4
	E-4 西部図書館(690.44 m <sup>2</sup> )	・・・	4
	E-5 三鷹駅前図書館(1011.89 m <sup>2</sup> )	・・・	4
	E-6 移動図書館	・・・	5
	E-7 コミュニティ・センター図書館	・・・	5
	E-8 多世代交流センター	・・・	6
F	図書館施設の考え方	・・・	6
	F-1 新三鷹駅前図書館	・・・	6
G	おわりに	・・・	7

(資料 1) 三鷹市立図書館協議会の過去の答申・提言一覧

## A はじめに

三鷹市立図書館は昭和39（1964）年に開館（本館）し、20年後の昭和59（1984）年に現在地に移転しました（新本館）。平成31（2019）年に開館55周年を迎えます。

現在、新本館の他、東部、西部、三鷹駅前、南部の4分館、移動図書館「ひまわり」号、それに連携館として井の頭コミュニティ・センター図書室を擁しています。利用は、入館者数は年間約90万人、資料数は91万点、年間に160万点を市民に貸出しています。

これまで三鷹市立図書館協議会（以下、「協議会」という）では、主にサービス面について提言をまとめて来ました。今回は、図書館の施設面の課題を採り上げ、長期的な視点に立って検討します。

最初に、三鷹市立図書館に寄せる市民の声を紹介しましょう。

## B 三鷹市立図書館に寄せられた市民の声

「三鷹市立図書館来館者調査（自由回答より）」（2018年調査）

この調査の際に寄せられた市民の声には、以下のような3つの特徴的な意見があります。

(1) 三鷹市立図書館の本館、分館の施設・設備が古く、魅力に乏しいとの声が多い。

「トイレを綺麗にして欲しい」、「洋式に早く切り替えて下さい」、「カフェ併設にしてほしい」

(2) サービスポイントの増設

特に、返却を便利にするためのブックポストを駅近くに求める声が多くあります。

「三鷹駅で本の返却ができるといい」、「通勤時に返却したいので、駅に返却ポストを作ってほしい」

(3) 移動図書館には過剰サービスとの声もありましたが、きめ細かなサービスを評価し、職員に感謝する多くの声が寄せられています。

三鷹市立図書館はこれらの利用者の意見を真摯に検討し、要望に応じていく必要があります。

## C 三鷹市立図書館の現有施設

三鷹市立図書館の施設は次のように整備されてきました。

- ・本館 昭和 39（1964）年に開館（本館）、  
昭和 59（1984）年 7月 17日 現在地へ（新本館）
- ・東部図書館 昭和 55（1980）年 5月 20日 開館
- ・西部図書館 昭和 62（1987）年 5月 21日 開館
- ・三鷹駅前図書館 平成 6（1994）年 1月 26日 開館
- ・南部図書館 平成 25（2013）年 11月 23日 開館

三鷹市立図書館の5つの施設のうち、3つが1980年代の整備であり、1990年代に1館、2010年代に1館が整備されました。中心になる3つの施設が建築後35年～40年が経過したので、古いという利用者の声はもっともです。なお、これらの老朽化した施設は、計画的に整備が行われることになっています。

なお、この他に下連雀図書館があり、昭和 47 (1972) 年 7 月 23 日開館、平成 28 年度末に社会教育会館の建替え移転に伴い閉館しました。

## D 平成元(1989)年の『三鷹市立図書館の将来計画について』(建議)とその評価について

### D-1 『三鷹市立図書館の将来計画について』(建議)

協議会が平成元(1989)年にまとめた建議は三つの柱で構成されています。

一つめは7分館の提言

二つめは下連雀図書館の機能の見直し

三つめはコミュニティ・センター図書室との協力についてです。

一つめの「7分館の提言」については、その一つである「新川・中原地区の未整備」は南部図書館の開館により解消し、「井の頭地区の未整備」は井の頭コミュニティ・センターとの連携により解消されました。現在まで残っているのは、「井口・深大寺地区の未整備」です。この地域は西部図書館がカバーしていることになると考えられますが、同館からはやや不便なこともあり、武蔵野市の武蔵野プレイスを利用している住民が多いと思われれます。

二つめの「下連雀図書館の機能の見直し」は、平成28年度末の閉館により課題がなくなりました。

三つめの「コミュニティ・センター図書室との協力」は、平成29(2017)年度に井の頭コミュニティ・センター図書室との間で協力関係を確立し、連携館となった事で、前進しています。引続き、他のコミュニティ・センター図書室との協力を開始する事により、三鷹市全域に図書館サービスが行きわたる様になる事が期待されます。

この様に、平成元(1989)年から約30年を経過する中で三つの課題の多くの点が達成されていると当協議会は評価します。引続き残された課題が達成されることを希望します。

## E 三鷹市立図書館の施設面の課題

### E-1 現有施設の改修と『三鷹市公共施設等総合管理計画』(平成 29 年3月)

「公共施設等総合管理計画」とは、公共施設等の老朽化対策が大きな課題となっている中で、人口減少等により公共施設等の利用需要が変化していくことが予想されています。これを踏まえて、公共施設等の状況を把握し、長期的な視点をもって、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うことで負担を軽減・平準化して、公共施設等の最適な配置を実現することを目的とするものです。平成26年に総務省が全国の自治体にこの計画を策定する事を依頼しています。

この依頼を受けて、三鷹市では平成29年3月に『三鷹市公共施設等総合管理計画』(以下、「管理計画」という)を策定しました。この管理計画では、築30年で大規模改修、築60年で更新という原則が示されています。その原則に従い、図書館等の大規模改修が始まっています。その内容は以下の通りです。

- ・本館 昭和 59 (1984) 年 7 月 17 日 現在地へ 令和元年～4 年度に改修予定
- ・東部図書館 昭和 55 (1980) 年 5 月 20 日 開館 平成 30 年度に改修実施

- ・西部図書館 昭和 62（1987）年 5 月 21 日 開館 令和元年～4 年度に改修予定
- ・三鷹駅前図書館 平成 6（1994）年 1 月 26 日 開館 令和 7 年度～に改修の時期を迎える予定
- ・南部図書館 平成 25（2013）年 11 月 23 日 開館 令和 25 年度～に改修の時期を迎える予定

この大規模改修に併せて建物の適切な維持・補修と、後述する貸出中心の図書館施設から滞在・交流型施設をめざした図書館へのリニューアルが行われる計画になっています。その計画では、市民の声であげられた「トイレを綺麗にして欲しい」といった点と貸出だけでなく利用者の幅広い利用への要望に対応できるような改善が図られるものと思われま

す。さらに、築 60 年で更新という原則に則ると、令和 26（2044）年度以降に新中央図書館の開館が具体化する時期になります。その際には、管理計画に示されている、公共施設の管理に関する 4 つの基本方針に従って検討することになると思われま

- ・公共施設の管理に関する 4 つの基本方針
  - 1 計画的な維持・保全による長寿命化の推進
  - 2 安全安心で快適に利用できる施設の確保
  - 3 社会情勢の変化等への対応と施設の適正化
  - 4 効率的で質の高い施設管理の推進

ここに示された 4 つの基本方針、中でも「3 社会情勢の変化等への対応と施設の適正化」という方針では、図中に三鷹中央防災公園・元気創造プラザ事業が示されていて、図書館の計画を検討する際の一つの参考例になるものと思われま

## E-2 三鷹市立図書館(本館 3,172.31㎡)

三鷹市立図書館は昭和 39（1964）年 10 月に開館し、20 年後の昭和 59（1984）年に現本館が開館しました。現本館の開館当時は多摩地区で最大規模の図書館であり、1 階部分の高い天井の広々とした閲覧室に成人・児童を一体的に構成しているのがポイントです。三鷹市立図書館の中心館であり、移動図書館の基地でもあります。2 階の集会室等を使って様々なイベントを開催しています。

この本館は、開館してすでに 30 年以上を経過し、令和元（2019）年度から改修に入る予定です。

また、令和 26（2044）年頃に改築期の建設後 60 年を迎えることとなります。その場合、現在地での建て替える案と、新たな敷地を求めて建設する案の 2 案が想定されます。

- ① 現在地での建替えの場合は、いったん仮設の建物に移転し、その上で新館が竣工ののちに再度移転することになります。従って、移転経費が 2 回分、それに仮設経費が発生するので、割高になります。

また、現在地で建て替える場合、建物の面積は施設については 3 階建てや地下の活用による床面積を拡充し、多様な機能を持たせることができるように検討することになると考えられます。

- ② 新たな敷地に建設する場合は、移転は建物が完成してから行うので、仮設経費は不

要で、移転経費の1回分だけを必要とすることになります。

新たな敷地に移転する計画の場合、検討は相当将来になるので、その敷地については現時点では全く想定が出来ません。しかし、一つの案に、目下、計画が進行している市庁舎本館の建替えに加わる事が考えられます。その場合、理想としては現在の床面積よりも広げるべきと考えられます。単独の施設としてもその程度の広さは必要と考えられます。併設する機能としては生涯学習センターがすでに元気創造プラザに設置されたので、その他の機能について検討することになるでしょう。

現時点では、市庁舎のいくつかの案の中には図書館を含んだものもありますが、建蔽率や容積率の関係で現在よりもスペースが2割減となると考えられていて、図書館としてのメリットが無い内容となっているようです。

また、現在の本館は現状のまま維持しサービスを継続しつつ、新たなサービス拠点を図書館サービスの充実に向けて構想することが考えられます。その具体的なプランが、現在の三鷹駅前図書館を移転し、発展させる構想になります。

### **E-3 東部図書館(596.92㎡)**

東部図書館は昭和55(1980)年5月に、市立図書館の二番目の分館として開館しました。開館後30年以上が経過し設備の老朽化が目立ってきたことからリニューアル工事を平成30(2018)年度に実施し、平成31年3月21日に開館しました。

リニューアル工事では、耐震補強、空調及びトイレ設備等を更新することで快適に利用できるとともに、滞在・交流型施設として活用できるような改修を行いました。

### **E-4 西部図書館(690.44㎡)**

西部図書館は昭和62(1987)年5月に、市立図書館の三番目の分館として開館したものです。西部図書館も開館して30年以上が経過したことから、東部図書館にならったリニューアル工事を行う計画です。十分に活用できていない正面のスペースは工夫の余地があるが、庭の改修等による活用は近隣住民の理解が得にくく難しいと考えられます。

### **E-5 三鷹駅前図書館(1001.89㎡)**

三鷹駅前図書館は、平成6(1994)年に三鷹駅前コミュニティ・センター2・3階に開館した、市立図書館の分館のなかでは最も広い1,000㎡台の広さの分館です。三鷹駅に近く、利便性は高いが駅から徒歩5分程度の立地です。それでも、本館と同様の夜間開館をしていることから、入館者数、個人貸出冊数などの指標では、本館に次ぐ利用実績となっています。特に、予約受付点数が多く、個人貸出数に占める予約受付点数の比率は高くなり、本館の17%台を始め他の分館も10%台であるのに対し、三鷹駅前図書館は25%台となっています。これは三鷹駅利用者を中心とする登録者で予約をして貸出しを利用する利用者が公共交通機関の利用に便利な三鷹駅前図書館を利用する比率が高いからであると考えられます。この事は、もし三鷹駅前図書館がより交通至便な地に有るとすれば、より多く

利用される可能性が高いだろう、という事を示しています。

しかし、現実には三鷹駅に近く利便性は高いが、駅に至近といえるほどの立地ではありません。また、建設当初から図書館として計画された建物でもありません。その為、三鷹駅に隣接する立地に、三鷹駅前図書館を発展させた「新三鷹駅前図書館」を構想することの必要性が高いことを示しています。

三鷹駅前図書館が立地する三鷹駅南口一帯は「三鷹駅前地区」の名称で昭和57（1982）年から再開発が始まっています。三鷹駅は隣接する吉祥寺駅と武蔵境駅に挟まれて集客力が低下していると評価されています。直近の計画は『三鷹駅前地区再開発基本計画2022』で、ここでは「商業の中心地として成熟した都市にふさわしい質的向上を図る」計画となっています。この計画の5つの基本的な視点の中に「都市の活性化」があげられ、その中の買物空間の広がりなどにぎわいを演出する取り組みの誘導の部分に、「地区内で予定される再開発事業を推進し、商業・業務機能の一層の充実を図るとともに、にぎわい創出に資する公共公益施設などの確保について検討します。」の一文が入っています。この公共公益施設の候補の一つとして、図書館を検討する価値は十分にあると考えます。

また、東京都は『多摩部19都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針』において、三鷹については都市づくりの進展状況に応じて、中核拠点・生活拠点・生活中心地の区分けの中で、吉祥寺、武蔵境に並び、生活拠点に位置付けています。その生活拠点の内容は、「交通結節点などにおける商業、福祉、文化、教育などの生活機能などの集積により、幅広いサービスを提供できる広域的な中心性を備えた拠点」との説明があります。

この、生活拠点である三鷹地区の中核的施設として、当協議会は「新三鷹駅前図書館」を含む施設を構想することを提案します。

## E-6 移動図書館

移動図書館は、その始まりは山本有三氏が山本有三青少年文庫を利用する子どもたちのためにバスを仕立てたもので、昭和44（1969）年に市に寄贈され、市民課の動く市役所の中の巡回文庫ひまわり号となりました。それを昭和52（1977）年に市立図書館が引き継いだものです。

移動図書館ひまわり号は分館網の整備に伴い巡回場所が少なくなっていますが、平成29（2017）年に新車両を導入し、図書館の未整備な地域や移動に困難を抱える利用者の為、サービス網の充実に欠かせないものになっています。

## E-7 コミュニティ・センター図書館

三鷹市では、1970年代から旧来の地縁組織による「ムラ」が崩壊するという都市自治体の問題に対して、市内7つのコミュニティ住区ごとに設けたコミュニティ・センターを拠点とした住民協議会の活動を推進するという、三鷹市独自の自治体政策モデルを実行してきました。

そのコミュニティ・センターに設けられた図書室が、コミュニティ・センター図書室であり、自主的に運営されていて、同じ図書・雑誌で地域住民にサービスしていても、市立

図書館とは無関係でした。

そうした中で、三鷹市立図書館のサービスが十分に及んでいない井の頭地区において、平成29（2017）年度に井の頭コミュニティ・センター図書室と市立図書館の間で協力関係が確立しました。

同館が市立図書館の連携館となった事で、地域住民に対するサービスは向上しています。

今回の井の頭コミュニティ・センター図書室との連携はお互いにメリットがあるということで進展しましたが、運営面は独立しています。図書館のシステムが連携しているほか展示などでの協力関係があります。井の頭コミュニティ・センター図書室での成果を他のコミュニティ・センターに情報提供していく事で、市立図書館との協力や連携が進むことが考えられます。また、運営の方法について相談したり、利用しやすい図書室となるよう助言の機会があれば積極的に関わっていく事が可能と考えられます。

井の頭コミュニティ・センターでの実績がよい例として広まり、コミュニティ・センターの側にも連携を受け入れる土壌が培われることが期待されます。

## E-8 多世代交流センター

滞在・交流型ということに着目する施設として「多世代交流センター」が西地区と東地区の2地区に設置されています。西地区の井口・深大寺地区では西児童館と西社会教育会館が集約され、東地区では東部図書館の近隣に位置し、どちらにも小規模ですが図書室が併設されています。このことから、本の受取り拠点となり得るかもしれないと考えられます。

## F 図書館施設の考え方

公共図書館では、図書館サービスを伸長する方策として、長く貸出しに注力することが取り組まれてきました。東京都の三多摩地区は昭和40（1965）年の日野市立図書館の開館に始まる貸出サービスの伸張により図書館を生活に定着させる活動の先進地域であり、三鷹市立図書館もこうした活動の一端を担ってきました。そうした動向の中で、図書館施設をできるだけ数多く配置する事が求められ、三鷹市でも分館は600㎡～700㎡の小規模の施設となっています。

こうした図書館施設の整備の方向は、2006年の『これからの図書館像』報告を代表とする、紙だけにとどまらないハイブリッドな資料情報の整備を進め、貸出サービスだけでなくレファレンスサービスや情報検索サービス等の多彩なサービスを展開し、様々な団体や組織と連携する事で地域社会に役立つ図書館を目指す方向に転換しています。新しく整備される図書館は、多様で快適な閲覧環境を整備して利用者が長い時間滞在し、様々な機能が集約されて人々が交流できる施設が求められるようになり、その結果として施設規模は拡大しています。このような図書館を滞在・交流型図書館と呼んでいます。

その代表例の一つが、武蔵野市の武蔵野プレイスになります。武蔵野プレイスはJR中央線武蔵境駅南口至近の地に建てられた地上4階、地下3階建て、図書館、生涯学習センター、



市民活動センター、青少年センター、の4機能を融合したことで延床面積は1万㎡近い規模になっています。図書館の蔵書数は約18万冊、貸出件数は113万件、施設全体の来館者数は195万人を数えます(平成29年度)。その利用者の中に多くの三鷹市民が含まれていると考えられます。武蔵野市立図書館全体の登録者は74,951人、内市外在住の登録者は35,534人と47%に達しています(平成29年度)。なお、三鷹市立図書館の市外在住の登録者は6,723人で登録者43,798人の15%です(平成29年度)。

## F-1 新三鷹駅前図書館

これまで述べてきたように、貸出サービスの充実を目指して、市立図書館の市域全域への整備は着実に進んできました。未整備の地域には移動図書館によるサービス、さらにはコミュニティ・センター図書室や多世代交流センターとの連携を模索していく事が考えられます。

一方で、多様な機能を発揮できる、滞在・交流型の図書館サービスへの市立図書館の転換は進んでいません。東部図書館はリニューアル工事の実施、それに合わせた滞在・交流型図書館への工事を行いました。しかし、今年度から始まる本館のリニューアル工事では設備機器類の更新が予定されていますが、その他の工事は予定されていません。従って、既存の図書館では実現できない機能を、新たな発想で整備することが望まれます。

また、現在の三鷹駅前図書館は駅前と呼ぶには駅から離れすぎていること、さらには当初から図書館向きに設計された建築ではない事などの課題があります。

更に、三鷹駅の商店街の地盤沈下が続いている状況を打開する方策を打ち出す必要があります。

これらの課題を解決する打開策として、三鷹駅前図書館を三鷹駅南口の、駅に近い場所に移転し、滞在・交流型の新三鷹駅前図書館として拡充、整備する事を提案します。

新三鷹駅前図書館は、一例として蔵書冊数15万冊、面積はおおよそ2,000㎡程度のものが必要と思われます(武蔵野市立吉祥寺図書館 1,656㎡)。図書館の他に幼児、子ども、青少年、女性、シニア世代などの多世代向け、それに生涯学習などの様々な機能をも含むことで、多様な利用者が活用できる施設として構想し、その結果、少なくとも合わせて5,000㎡以上の規模とすることで、広い地域からの利用者も含めた多くの人々の利用に応える三鷹駅南口の中核的施設として整備することが望ましいと考えます。

三鷹駅南口に三鷹駅前図書館を移転し、滞在・交流型図書館として整備した上で、新たな機能を加えて広域的な役割を担える中核的施設とすることで、現在の三鷹駅前図書館の利用では満足できない三鷹市民の利用者を引きつける事ができます。さらには、武蔵野市民などで三鷹駅を利用している人々も新たに三鷹市立図書館の利用者となる可能性が高いと考えます。その利用圏域は、武蔵野市立中央図書館が五日市街道の北側に位置することから、おおむね井の頭通り南側まで及ぶことが予想できます。これら新たに利用者となるであろう武蔵野市民を初めとする人々は、新三鷹駅前図書館を利用する為に三鷹駅南口を通行することになるので、人通りが増え商店街が活性化することが期待できます。

こうした商店街の活性化に役立つ施設として図書館を利用した例に、町田市立中央図書館が挙げられます。町田市立中央図書館は、昭和55(1980)年に原町田駅を小田急線町田駅側

に接近させたことで両者の間の乗換は便利になったものの乗換客が通らなくなって、賑わいが減った商店街への対策の一つとして、乗換客が利用しない JR 町田駅（旧原町田駅）側に平成 2（1990）年に開館したものです。その効果は 2016 年度に約 65 万人の来館者を数えるという町田市立中央図書館の利用の活発さから十分に証明されていると考えます。なお、原町田駅は駅前の再開発に伴い、1980 年に町田駅に改称しています。

## G おわりに

今回の協議会の提言では、昭和 39（1964）年に三鷹市立図書館が開館してから今日までの図書館施設とネットワーク網の充実の状況をまとめ、市立図書館が一層市民に役に立つために今、何が求められているかを検討してきました。

当協議会は三鷹駅前図書館を拡充して滞在・交流型の新三鷹駅前図書館として整備し、この新三鷹駅前図書館に加えてさまざまな市民生活に密着する機能を集約した新たな生活拠点を、三鷹駅南口に近接した場所に整備する事を提案します。

三鷹市立図書館協議会は三鷹駅南口に新三鷹駅前図書館を含む生活拠点が整備され広範な人々に活用されることにより、三鷹市民の文化的生活が一層豊かになる事を確信しています。